



知られざる

ランチェスター先生の経歴

【マル秘メルマガ】より

23 通目

◆ 1 年間に 6 台販売

1899 年 12 月に会社を創業したが、次の年の 1900 年は 1 年間で「6 台の車」が製造されたにすぎなかった。
この 1 年間は、経営的には非常に厳しいものだった。

車の設計が完成すると、兄は仕事のとりまとめとレイアウトにかかりきりになった。

仕事の段取りや、他の諸部品の設計と製作及び工具類まで、すべてしなければならなかったが、兄はどんどん仕事を進めていった。
このような仕事に関して、兄は偉大な知識の持ち主であった。

本格的に車が製産されるようになったのは 1901 年になってからであった。少しだけ手を加えた 10 馬力の設計は、1905 年までずっと同じままで使用された。

車については、トマス・ハークスレイで講演をした。また I.A.E. の紙上で次のように指摘した。

内燃エンジンの設計者達が長い間知識として持っていることは、つまり、ピストンの回転数を多くすることにより、馬力当たりの重量負担が減り、パワーが増すということであった。

初期の車のエンジンは 1 分間に 1000 フィートのピストンスピードが出るように設計されていた。

これは R.A.C. (ロイヤル自動車クラブ) の規則が出来た時の基礎となるものであった。

1900 年以來、一般に受け入れられているのは次のようなことである。つまりピストンのスピードを増加するにはより小さなシリンダーを使って、回転数を多くすればこれは可能になり、3~4 気筒のシリンダーを持つエンジンはより大きな許容量をもつ、単気筒または 2 気筒のシリンダーにとってかわり始めるということであった。

しかし初期の段階では、4 個のシリンダーを一直線に並べるためのクランクシャフトを作ることは、当時の技術で大変に難しい事であった。このような事情にあったが、1900 年から 1914 年の間に技術上の急速な進歩が出て来た。

4 気筒のエンジンは一般的なものとなり、6 シリンダー並列エンジンのものも、いくつかあらわれてきた。6 気筒の最初のもは 1905 年に、モンターギュ・ナピエールによって製造された。

この期間兄はマルチ・シリンダーエンジンの可能性にチャレンジし、10 馬力のエンジンにとってかわる車の設計に着手した。

そして 1905 年に、4 シリンダー 20 馬力の車の製造に成功し、続いて 1906 年には 6 シリンダー 28 馬力を作りあげた。
これらの設計の中で、兄フレデリックは多くの新技術を開発した。

その中の主なものは、

- ・エンジンとギヤボックスを 1 つの部品とした。
- ・オーバーヘッドバルブの設置により、エンジンの回転が増した。
- ・車台のフレームは 16S.W.G. (Standard Weight Gage) 規格スチールで 6 インチ×2 インチの角パイプで作られた。
- ・オイルタンクは車台フレームの曲がった部分に納めることができた。
- ・アルミの軽合金を広範囲に使っていること。

クランク室及びその下の油だめ、ギヤボックス、後部差動機ケース。そしてキャブレター等。

- ・キャンティレバーサスペンション（もともとゴールドメダルフェアトンに使われていた）の設置。
- ・ギヤー全部にプリ・セレクションをつけたこと。

ランチェスターカーの設計の特徴である、ティラーステヤリングは1906年になると段々姿を消し、1908年にはついになくなってしまった。

その理由は2つある。

1. 車の規模が大きくなったので、より力のあるエンジンにした為に車の重さが増加した。
2. 内蔵ボディーを導入したこと。

◆資金調達に失敗し会社を売却

兄は、このような技術開発に努力はしていたものの、経営上はうまくいかず資金的に困っていた。そこで仕入先や関係先に出資を呼びかけて出資を得たことで、経営は共同経営のようになった。

しかし、数年後に再び資金が不足したことが原因で出資者たちとの間で意見が対立した。

この時兄は、社長としての地位を退く時期に来たと思い、経営者から身を引いた。

そして1908年（40歳の時）、会社をダイムラー社に売却した。

（注）同社は英国に本社があり、ドイツの「ダイムラー・ベンツ社」とは全く無関係。そのダイムラー社も、やがてジャガー社に身売りすることになる。

商標登録された「ランチェスター」のロゴマークは、現在ジャガー社が所有している。

1909年（41歳の時）兄は、売却先のダイムラー社の技術コンサルタントとして迎えられ、そこでナイト・スリーブ・ヴァルブ・エンジ

ンの発展に多大な貢献をした。

1911年から1912年の間に4シリンダーの25馬力車と、6シリンダーの38馬力車が設計された。

これらの車は、20馬力の車と28馬力の車を発展させたものであった。しかしこの車は、現在どこにも残っていない。

兄はこれら2つの設計に対しての相談役であった。

（続く）



ランチェスター経営（株）



〒810-0012 福岡市中央区白金1-1-8 チュリス薬院 301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>